おひさま通信

ヨシミツさんの宝物

＊白岡太陽家にじ＊

「えーっ、いいや」

白岡太陽の家にじが10年前に移転した当時から、ヨシミツさんは洋菓子作りのパッケージシール貼りの仕事を行っていました。

ヨシミツさんは誰にでも優しいけれど、自分の気持ちを伝えることは苦手です。精神の障害を併せ持ち、服薬の影響でいつも眠気が強く、送迎車の中でも活動中でも寝ている印象が強い仲間でした。

でも、ヨシミツさんはズボンのポケットがパンパンになるまでパンダのフィギュアや小判、ゴルフボールなどの宝物をつめこみ、宝物が入った重いボストンバックを背負い、毎日休まず、太陽の里から通っています。

気持ちが落ち込むと夜通し宝物をめでていたり、仕事や活動に誘っても「えーっ、(おれは)いいや」「やらない！」と宝物を手にしながら断ってしまいます。

一年を通して気分の良い日は少なく、心と体のバランスを保つ日も少ないヨシミツさんの気持ちを立て直すために、宝物から人へと気持ちを向けてほしいと職員は願っていました。

「立って仕事する！」と叫ぶ

ある日のこと。シール貼りの仕事を担当していたヨシミツさんは、この日も眠気が強く、何度も「椅子から落ちちゃうよ！」声がかかりました。そのたびに、一生懸命に目をこすり眠気と闘うのですが、やっぱり眠気には勝てず、白目をむきながらウトウトしてしまいました。

しかしこの日はいつもと違い、突然立ちあがり、「立って仕事をする！」と叫んだのでした。フラフラと身体を左右上下に揺らしながら、シールを貼るどころではありませんでしたが、立ちあがり、仕事に取り組もうとする姿勢にすごく感動しました。

コロナ禍と「解体がいい！」

昨年4月、新型コロナの感染拡大によりまつりやバザー等が中止になり、洋菓子が売れず仕事の売り上げが激減しました。仲間の給料を確保するために、にじでは新たな仕事を立ち上げることにしました。

職員は新たな仕事について、どの仲間でもできること、ヨシミツさんの「立って仕事する」を取り入れること、仲間に関心が持てる内容であること、一人でもできペアでも協力が可能なものなどを要素に持つ仕事を検討し探しました。そして、これらの要素を含んだ仕事を見つけました。それは「古雑誌等の解体作業」です。

趣味のコレクション雑誌や手帳、カレンダーなど、納品時に受ける新たな仕事の中身が違い、仲間たちは毎回、何の仕事がもらえるのかワクワクしています。

ヨシミツさんも他の仲間と同様にすぐに関心を持ち、「解体がいい」「解体をする」と話してくれるようになりました。何より、この仕事をしてから、寝てしまうこともなく、仕事をやりきることがみられるようになりました。時には職員と会話しながら取り組んでいます。

新たな宝物づくり

解体仕事に取り組むヨシミツさんに、暮らしの時とは違う仕事に向き合う気持ちがしっかり根付くようにと、仕事着の取り組みを行いました。職員と仕事着を一緒に買いに行き、仕事用のバッグを一緒に選んで購入しました。作業着は曜日ごとに用意し、その日に着た服は帰る前に洗濯して干し、翌日取り込み、たたむことに取り組みました。

また、仕事用のバッグはブランド品を選び、大事に大切に使い続けていくようにしました。そして、バッグの中には『3年日記』帳を入れ、にじの職員や里の職員が毎日、コメントを書くようにしました。ヨシミツさんは、職員が書いたコメントを見て楽しそうに微笑んでいます。職員の気持ちがつまった日記帳は、新たな宝物となりました。

「父ちゃんに会いたい」と漏らす

ヨシミツさんの楽しみの一つに家族との週末の外出があります。父親と上野動物園に出かけ、動物のフィギュアを1個買うことをとても楽しみにしています。また、上野で父親と好物のカレーを食べることや、一時帰宅した実家から置物などを里に持ちかえることなどを楽しみにしています。時には、父ちゃんの靴の片方だけを持ち帰るなど、家族の繋がりを大事にしている姿が見られます。

いまコロナ禍のため、実家への帰省ができません。いつもは自分の気持ちを外に出さないヨシミツさんが「父ちゃんに会いたい」と漏らしていました。

ボストンバッグの中の職員の写真

にじでのヨシミツさんの姿は、10年前と比べてだいぶ変わりました。自分からすすんで仕事をする様子は想像できませんでした。ヨシミツさんの宝物になればと考えた作業着やバッグの取り組みから、作業着に着替えることが「これから仕事が始まるんだ」という気持ちの切り替えにつながったように思います。

最近、バッグの中に里の職員の写真を忍ばせて持ち歩くようになりました。どうやら、お気に入りの職員のようです。ヨシミツさんの宝物は置物から人へと変わり始めたように思われます。仕事の中で、人との関りを大事にしてきた成果かもしれません。

白岡太陽の家にじ職員　山岸（やまぎし）　一

響き

蓮田はすの実作業所

毎朝仕事の前にみんなでラジオ体操を行っています。雨の日は施設の中で行うのですが、梅雨にもかかわらず晴れていることが多く、外で元気に行える日が多いです。貴重な晴れ間を存分に活用しているはすの実の仲間たちです。

大　地

職員の腰痛対策として床走行リフト、昇降台、ベッドの増設が行われています。この度女性トイレに天井走行リフトを設置しました。職員は体をひねったり、強い力で移動することが減り、介助が楽になったといいます。仲間は職員の姿を見て安心して身体をあずけています。

川口太陽の家

コロナ禍でも太陽青年隊は元気に活動しています。今の状況をみんなで悔しがりながらも、こういう時でも楽しめる事、笑い合えたり高め合ったりできる事をみんなで話し合っています。旅行に代わる企画も少しずつ準備中です。

久喜地域活動センタへーたいよう

昨年度、新型コロナウイルスの影響で中止になってしまった「成人・還暦・古希を祝う会」を、5月24日に施設で行いました。還暦古希のお祝いの対象になっていた2人の仲間は、とても凛々しく、人生の節目を皆にお祝いしてもらい、嬉しそうにしていました。

太陽の里

天候に恵まれたGWの5/4、太陽の里に本場インドカレーのキッチンカーが来訪！施設長&副施設長お手製の川越焼きそば、川上シェフ特製ユニバーサルデザインスイーツまであり、仲間のみんな美味しい物は底なし、デザートは別腹で満面の笑み。コロナ禍でも贅沢な時間を過ごしました。